

白雲西雨時報

伯和西爾時報

土地を買ふ場合の注意

格言に「善をなせば、天之に報ゆるに福を以てし、不善をなせば、之に報ゆるに禍を以てす」と云ふことがあるが、世の中を少し廣く觀るならば、大抵此の格言通りになるものである。云ふことが分明する、今茲に大形らしく世界の實例を引用する迄もなく、我が國の驕る平氏が倒れて、勤む源氏が榮へたのも、忠臣楠氏の興つて逆臣源氏の亡びたのも、是れ皆一善因善果、惡因惡果の理法に依るものである。

悪しき例なるも、最近起つた一事を擧げて見るならば、長く北美に隔つる、濕地で、不健康地で、到底近き将来には人の入り込む見込のない場所を、丁度紹介中等教育家に、廣漠たる野原でも捨てあるかに、虎の子の様に貯め置いた資金を、喫かし取つたと云はる。開本米穀は資本家一比較的正直な人間の如く吹き立て、連の射撃心を煽り立て、而かも彼等の虎の子の様に貯め置いた資金を、喜ぶべきことである、されど私共は信用忽ち失墜して、會社も近頃没落するに至つたとのことである。

是等は、因果の観面甚だ早きの觀るも、悪しきものは何れにしても亡ぶるもののなれば、一日も早く亡びて只單に惡者を惜み、惡者の亡びんことを希ふのみでは、未だ責任を完ふしたとは云へぬ、私共は常に精神を練り、見聞を廣め如何なる場合に如何なる者に出会つても、之が善惡

を識別する力を持つて居らねばならぬ、兎角惡魔は、言葉巧みに且つ執拗に、人の缺點に乗るものである。

此は北米のことであるが、リツチモンド土地會社云ふ白人の會社が日本人の最も惡陋なる者を使つて、日本人の労働者に無理やりに土地を買はしたところがあつた、私は二三労働者

はされたゞ云ふ土地の見分に行つて見た所が、驚くべし、彼等が強ゐ買者の請ひに依つて、彼等が強ゐ買シヨンを欲しさの、周旋屋に欺かれたので、其の罪彼にあるは勿論で、豫定だゞ云ふ、海中半涅先きの水の底であつた、固より是等は、コンミ

シヨンを欲しさの、周旋屋に欺かれたので、其の罪彼にあるは勿論で、豫定だゞ云ふ、海中半涅先きの水の底であつた、固より是等は、コンミ

シヨンを欲しさの、周旋屋に欺かれたので、其の罪彼にあるは勿論で、豫定だゞ云ふ、海中半涅先きの水の底であつた、固より是等は、コンミ

シヨンを欲しさの、周旋屋に欺かれたので、其の罪彼にあるは勿論で、豫定だゞ云ふ、海中半涅先きの水の底であつた、固より是等は、コンミ

シヨンを欲しさの、周旋屋に欺かれたので、其の罪彼にあるは勿論で、豫定だゞ云ふ、海中半涅先きの水の底であつた、固より是等は、コンミ

シヨンを欲しさの、周旋屋に欺かれたので、其の罪彼にあるは勿論で、豫定だゞ云ふ、海中半涅先きの水の底であつた、固より是等は、コンミ

NOTICIAS DO BRAZIL

Publicado semanalmente

Rua Conselheiro Furtado
No. 89

S. Paulo, Brazil
Proprietario e editor
Seisai Kuroishi

Assignaturas

por Anno 10\$000

" Semestre 5\$500

" Mez 1\$000

" Semana \$800

同化こほ何んぞや

日本語の同化なる名詞は、生物學上、西洋では、古き羅馬の時代に於て、用語で、羅典語の「アツシミラシオ」に該當する語である、一つの物のできる物ではない、故に之が賣買契約即ち權利の設定を爲すには、出

來得る大綿密な調査を遂げて後ち取れたので、戰争の結果、羅馬に俘虜となり、奴隸となりた者が、長く羅馬に住んで、段々羅馬人に類似して行く有様を指して、同化云ひ又時としては

化開化シブイリザーレして行くと云ふたものであるが、日本では、最近日本人が北米地方に移住する様になつて、北米人が日本人は、米國に同化するであらふか、と云ふ問題を擔ぎ出してから、人種關係の意味に於て、大大に人口に喰合せらるゝに到つたのである。

夫れに土地買契約の方法には、所で此の同化なるものには、二様の植物の如く氣候風土の關係に文脈化するであらふか、と云ふ問題を擔ぐるものと、又理性的に、善惡を識別して進化し行くものとの二つである。之を學問上の言葉で申せば、一つを無意識的同化又は自然的同化と云ひ、他を意識的同化又は人爲的同化と云ふのである。而して此の前者の意味の同化は、人間が自然の法則に對抗する力なき以上、長い間には到底免るべからざる、自然的勢力で

映じたのである。此の邊の事情が、
虞殺の有力なる原因をなしたのである。
以上は即ち、大體に於て吾人が了解すべき
所の同化の意義であるのである。
大正七年一月「サンバウロ」市に於て
開催されたものである。

讀者・記者
裸にな
るのは同胞全體の耻

歐洲大戰は何時如何に終熄する乎（中）

らう、假令露國にして獨逸ご和するとも、英佛は最早敗北する憂はないのである。乍併斯くなつては勝利を

勝利は確實であると云ひ得るわけで
ある。

にして消化器の負担を軽減してやること、特に勞働後は不知不識喰い過ぎする者故注意が肝要。

聖波羅土地木材殖民會社

らう、假令露國にして獨逸と和する勝利は確實であると云ひ得るわけである。英佛は最早敗北する憂はない。とも、英佛は乍併斯くなつては勝利を得る事困難となるが故に、英佛は論露國の獨逸に走るを防ぐであらう。又此際日米の反目があつても、英佛は大いに不利を受くであらうからして、英佛は必ず日本をして交驩せしむる事に努力すべく、日本も亦非常なる大膽の策に出でざる限り、米國と親しみ、日英米佛の親善を鞏固に事を宣言し又サイプラスを英國に併水ののである。

更らに之れを敵側に見るのに獨塊は今更離れ得可きものではない、匈牙利も今日は墺國と分離可き時機ではない、ブルガリヤに至つては開戦間際迄英佛公使を操りしものであつて今更英佛及布塞と友たり得ない。野菜はボン、米飯、フエジョン等、差支なく敢て恐る必要なきことなる可く緩りかゝつて良く咀嚼して喰ふ事、粥は却て有害にして對の結果を來す、肉は喰はぬ方宜整薬用是れ迄服用のものは適當でないからやめて

當初は九百數十家族の各國人土地所有者を有し
其の中日本人は二百有餘家族にして現在諸百家

族何れも入植後日尙淺きにも不拘著しき成績を
挙げつゝあるは今更喋々するを要せず一度視察
して偽らず飾らざる絶好殖民地の眞實を知られ
たし（十月上旬調査）

Director-gerente Dr. James Mellor
Comp. de Terras, Madeiras e Colonização de S. Paulo.
Ribeirão TINHA Nobreza

◎米作地として有名なる
「ゾンビ」直呂也

伯刺西爾拓殖會社

仁川アベ植民地

當植民地は醫師、農業教師、測量技手、園藝得業士等常置し植民の保護誘掖

上必要なる組織を有す
當殖民地は道各四通り陸交通用庄より

(4) 畜牧地は道路附近に適宜適有な
④ 畜牧地に於ては新來植民は耕作時期

まで日雇又は請負労働に從事することを得、

當植民地には資力乏しき者にても自作

農業爲し得る方法あり
● 汽車のサントス港發は毎週月曜水曜の兩度午前九時

二十分發にして同列車のジユキア着は同日午後四時
なり此の間の二等汽車賃は金十ミル百レイス

● 視察に最も便利なる

「イグアペ」植民地

卷之三

記者足下、小生は近頃或る川邊を通行しますと、我が同胞の男女五名が日中真裸になつて水泳をして居りますして、其の又近くの数の中には二人の伯人が顎丈出して笑つて居りました。うろこで小生も見るに見兼ねて、真裸の水泳は甚だ以て不都合千萬だ、殊に伯人に見られたのは吾々一般の耻晒である、早く止め玉へど怒鳴つて遣つたら、先方もいくらか悪いと思つても負け惜みか「真裸でなくちや氣持が好くないよ」など、つぶやきながら上つて來て服を着た、こんなことはモ一二度と再びありますまねが念の爲め同胞一般に注意して置くのも、眞ん更不必要なことではないと思ひますが如何でしよう。

聖波羅土地木材殖民會社

●當社はチエテ、リチファイユの兩河の間七十キロメートルに渡り數万アルケーレスを有する本州最大の殖民地にして水質良好、氣候溫和なる膏肥の地リチファエユ、及ビリグヒの二部分を廉價にて且つ其拂込方法を容易にして日本人諸君に提供す。

●當社は九百數十家族の各國人土地所有者を有し其の中日本人は二百有餘家族にして現在者百家族何れも入植後日尙淺きにも拘不著しき成績を挙げつゝあるは今更喋々するを要せず一度視察して偽らず飾らざる絶好殖民地の眞實を知られたし(十月上旬調査)

御用の向きは左記の場所へ御照會ありたし

宮崎八郎

Director-gerente Dr. James Mellor
Comp. de Terras, Madeiras e Colonização de S. Paulo.
Briguy.

LINHA NOROESTE.

●米作地として有名なる
「イグアペ」植民地

伯刺西爾拓殖會社

「イグアペ」植民地

●當植民地は醫師、獸醫、農業技師、測量技手、園藝得業士等常置し植民の保護誘掖上必要なる組織を有す

●當植民地は道路四通八達交通自在なり

●當植民地に於ては新來植民は耕作時期まで日雇又は請負労働に從事す

●當植民地には資力乏しき者にても自作農業爲し得る方法あり

●汽車のサントス港發は毎週月曜水曜の兩度午前九時二十分發にして同列車のジュキア着は同日午後四時なり此の間の二等汽車賃は金十ミル百レイス

●視察に最も便利なる
「イグアペ」植民地

の勧告に基いて旅立を思ひ留まつた。ださうだ、ろして七日の會議に出席した。清浦副議長が不在であるし日米協定交渉結果未報告はてふ國家の重要な問題もあるし旁々騒ぎを押して出席したと云ふ事で本議長の登院と共に會議は開かれた。當日は東潤の間に於て開かれた。重要案件日米協定交渉結果未報告は野外相寺内省相に依つてせられ、議員の質問に對し兩相の懇なる詳説明があつたのみで豫定通り圓満通過し會議を終つたのは十一時前であつた、次で各顔面官は晴れやかな面持ちで續々退出する。

▼ 記者顎を引見す打見たるところは頭髪既に霜を交へたれど肉附色蒼白に比して麗はしく船出前の氣忙しき中に語る「御用事は? 退俗の事ですか、夫れは極めて簡単です私は専業として役目をモウ果し得られなつたから出来ない事はモウ止めと云ふだけの事です仕事が出来ないでグズ／＼するのは實がないのに名を抱くがるので此際派内に止めるからつて私はろんなど責任な空名はイヤです、従つて此際宗教に對する考へなども無責任に私の口から一切何も云へません派内の確執からだらうなど、はんに私にしても夫れは餘り殘酷なニンゲンは居ないが、それで今度の南洋行は何か飯の種を拵へたいからとの事です私の今迄活動範圍として居た支那が活動に不適なりましたから働く方面を變へたまでの事

監督の七段士居市太郎氏は四日愈々舊段に昇進し京橋南櫻河岸川崎家の宝式會で發表され追つて披露の將棋会を開く筈である士居氏は愛媛縣津が濱の人、將棋にかけては年時全く代から天才を現はしてゐたが上京する八段關根金次郎氏の門に入り玄蕃の手腕を益々發揮し先年も阪田八九郎と局し香平四番何れも士居氏の手をやつたのが昇段の重なる理生抜きをやつたのが昇段の重なる理生で關根氏の尙早説に拘はず昇段となり殊に本年九月の定式會で八人抜きをやつたのが昇段の重なる理生で關根氏の尙早説に拘らず昇段したものである氏は片足不具であるじ炳が甚だ好いので後援者には柳原伯、服部金太郎氏、三菱等の熱心な人を多く有つてゐる

●六十萬圓寄附の取消

式大定の條件に缺くるものあれば六十萬圓寄附の申出を撤回する旨北條前總理まで言明したりと通告したり時、一時世人を騒がしたる六十萬圓の研究所は遂に設立を見るに至ららずして煙の如く消え失せたるなり

三、大勝段妙し時、の研究所以は遂に設立を見るに至ららずして煙の如く消え失せたるなり

田原かしに就き一同額を鳩めて相談中なつてのことである。

東京の國技館全焼失手

東京兩國の名物たるのみならず日本唯一の大人数を收容し得る東京の相模當設館たる國技館は十一月廿九日發火し全部鳥有に歸せり原因は電線の交叉點に缺陷ありて發火せりと想但しき損害は約二百萬圓ならん同建築物は東京相模協會に依り建てられわるものにして東京相模の春場所も詰きたる際、先づ何處にて興行すつかに就き一同額を鳩めて相談中なつてのことである。

16 ブラジル語講習録

pe d'elle. 私の父は非常に席をかいいて彼の傍には就られぬ様です。

メラ ミン オ メリール テンボ エオ ケセ バーサ ナ カーマ

a Para mim, o melhor tempo é o que se passa na cama.
私にどつては最も良い時は寝臺に居る時であります。

レアルメンテ セ ア ジェシテ \ノン サルタ ダ カーマ ローザ ケ

b Realmente, se a gente não salta da cama logo que
アコルダ ツルナ ア フドルメセール
accorda, torna a adormecer.
實際です。誰でも目が覚めると直ぐ寝臺から飛び起きなければ又
熟睡して終ひます。

アシン ケ メ レブアント アイストメ エ ドウ ウン パセイオ トグス

a Assim que me levanto, visto-me e dou um passeio, toda
アス マニヤンス セオ セニヨール キセール ブイル コミゴ オージ
as manhãs. Se o senhor quizer vir comigo hoje

テレイ ムイト プラセール
terei muito prazer.
毎朝起きるとすぐ着物をきて而して散歩に出掛けます。今日私は
御一所に御出でになり度ければ悦んで御供致します。

b Vamos, mas enquanto acabo de me vestir, o senhor
fica lendo o jornal.

註 私が起きる levanto-me, 貴方若くは彼が起きる levanta-se. なれども此の語の前に問ひの語(que, quando の如し)又は não ある場合は me 若くは se を levanta の前に置くのである。例へば À que hora se levanta o senhor の如し。toque 鳴らす事。ao primeiro toque の a は何々の 際にの意なり。Costuma 貴方(彼)が習慣とする。costumo 私が習慣とする。sonho 夢。sono 眠氣。se passa 過す。torna a 何々を繰り返す。assim que は logo que と同じく(何々すると直ぐに)。se quizer 欲するならば。terci 持つであらう。

●近頃珍らしかつた……
山公の議長振 日宣言の發表されるま
石井特派使節の交渉になつた日當定の案任も十一月七日の樞密院定會議を通過して發表された此日は朝から一人の活動を帶びて審院は午前九時二十九分九鬼禪問官を前にして細川、安廣、小松原、横頭に次いで細川、安廣、小松原、横曾我、南部各顧問官が自働車に車に附着して登院した、やがて五十分自働車を駆つて表玄關にフック姿の肥満した露西亞式スタイルをござりしる現はしたのは同じく自働車で驅せ付けたのは軍姿の嚴然しい寺内首相であつた二十分遅く本野外相であつた二十分遅く同じく自働車で驅せ付けたのは軍五十分静かに玄關に横付けされ六〇號と酩打つた黒塗の自働車か歩みを二階へ運ばせるはカキ色軍服に大勳位の勳章を用いた山縣老公は大演習題開始ため滋賀縣下へ旅立つ豫定であつたの生氣を此會議に加へたやうな事であった、此日老公は大演習題開始歩みを二階へ運ばせるは近來稀な事で二

四年振の大谷光瑞
出迎人を睡然たらしめて
一飛ぶが如く臺灣に去る
　　南洋へ飯の種を拵へに
行きます

（印）御歌所錄事大口
（氏）の辭職

—將棋界の天才者—

立をもつて、東京の寄附金合計六十萬圓の寄附申出をもらつたが其の内情を
探知したる 理醫兩大學教授連は建設費三十萬圓、十箇年の研究費二
十萬圓、社長鹽原又策氏より當時東北大與長たりし北條時敬氏に理化學研究室
を設立せんとするものにて斯の如き寄附金を受理するは大學の權威を傷つけるの甚だしきものなりし所で、實に厚く理反対を主張し其の急先鋒たる真島博士の如きは直接北條總長に取消せらるゝ書面を以て福原同大學總長に向ひ研究委員二名中田丸博士は東京の寄附條件中に

ブラジル語講習録

15

会話

オ レヴァンタール
o Levantar (朝起の事)

a E' a hora de levantar-se, sr. B. (batendo à porta do quarto do sr. B.) Já está levantado?
起る時ですよ。べーさん。(べーさんの部屋の戸を叩きながら)。モー起きて居のですか。

b Ha mais de meia hora que estou de pé.
Eu gosto de levantar-me cedo.
モー半時間前から起きて居ります。私は早起きが好きです。

a E' um bom costume nos paizes quentes.

E' muito bom para a saude.
暑い國では良い習慣です。健康の爲めに大變宜う御座います。

b Levanto-me sempre ao primeiro toque do sino, isto é,
アス セイシス オーラス
ás seis horas.
私は何時でも一番初めの鐘の鳴る時即ち六時に起きます。

a Não sou tão madrugador como o senhor. Mas gosto
ムイト デ ドルミール タルデ

muito de dormir tarde.
 私は貴方の様に早起者では御座いません。却て夜更しが好きです。
 コスツーマ オ セニヨール ソニヤール

b Costuma o senhor sonhar?
 貴方はよく夢を見ますか。
 テーニョ アス ブエセス ソーニヨス ベン ヘノーゾス ア ノイテ バサーグ

a Tenho ás vezes sonhos bem penosos. A noite passada
 ソニュイ ケ カイアーメン ポーゾ
 sonhei que cahia num poco.

三人旅

然し御母さんは私共は朝飯を食べて出掛ける方が宜いと申しました
うして又駄菓子を袋に入れて呉れました。市街を出まして大道を通り
る所から近道を取りました。

- エセ アターリョ バサーパア ポル ミイタス シヤカラス エントラーピア エン
 5 Esse atalho passava por muitas chacaras, entrava em
 マートス エ エステンギーアセ ベロス カンボス エ ブラードス
 mattos e estendia-se pelos campos e prados.
 此の近道は澤山の菜園を通過し森の中に入つたり野原や牧場を通つて延長して居ます。

シェガーモス アルガーレス オンテ エラヤフィーシル アングール シエイオス テ
 6 Chegamos a lugares onde era difícil andar, cheios de
 モイタス エスペーラス テ アルブオレス アルタス エ テ ケランデ ローシヤス
 muitas espessas, de arvores altas e de grande rochas,
 マイオーレス カダ ウマド ケアノサ カーデ エケ サイーアン ドス
 maiores, cada uma, do que a nossa casa, e que sahiam dos
 ラードス グ モンタニニヤ
 lados da montanha.
 私共は厚い繁みや高き樹木や何れも私共の家よりも大きい山腹から
 出て居る大きな岩で満々たる歩行も困難なる場所に到着しました。

アフィーナル ボルボウルダ メイオ ザーハ エスターーパモス ノ アルトダ
 7 Afinal, por volta do meio dia, estávamos no alto da
 モンタニニヤ エ アイアモス ブリー ア ケランデ やスタンシア エステンデンド
 montanha e viamos d'ali, a grande distancia, estendendo
 ア ブイスタ ボル ソーブレ カーデス モンテス エ フロレスタン
 a vista por sobre casas, montes e florestas.
 遂に正午に近き頃に私共は山の頂に着しました。其所からすつさ
 遠方に家屋、山や森に眼を展じて眺めて居りました。

オス オーメンス ケ アンダーパアン ラー ボル バイショ バレシーアン ウンス
 8 Os homens, que andavam lá por baixo, pareciam uns
 ボココス エ アス アルブオレス ウンス アルブストジニヨス
 bonecos, e as arvores uns arbustozinhos.
 すつさ下の方に走んで居る人間は人形の様に見え又樹木は小木の様
 に見えました。

第八課 (Lição Oitava)

- 1 Papai um dia foi conmoseco á montanha. Calçamos
 sapatos grossos, que as pedras não podiam cortar.
 或日のこと御父さんは私共一所に山に行きました。私共は石でも
 粉り切ることの出来ない様なごつい靴を穿きました。

2 Cada um de nós armou-se de um bordão para se arrimar
 na subida. Um carregou um sacco, em que a mamai tinha
 metido toalhas e outras cousas; outro levou um copo-
 zinho para beber agua.
 私共は各自坂路で縋り付く様に金剛杖を用意しました。一人は御母
 さんが手拭や其他の物を入れ置いて下すつた袋を提げ。モー一人は
 水を飲む爲めに小さいコップを持つて行きました。

3 Levantamo-nos de madrugada, sem que ninguem nós
 acordasse, e estavam tão afflictos por sahir que nem
 queriamos esperar pelo almoço.
 私共は誰からも起されずに朝明方に起きて御飯の出来るのを待つの
 も嫌やな位出たくて堪らなかつた。

4 Mas mamai disse que era melhor sahirmos almoçados e
 pôz tambem alguns pães no sacco. Sahimos da cidade;
 seguimos pela estrada, e, depois, tomamos por um althal-

